

## 中長期事業構想・事業計画

### 事業構想

3月9日開催の理事会において、「中長期事業構想」が承認されました。これを受け、3月28日開催の評議員会において、深澤理事長のあいさつのなかで、「中長期事業構想」の考え方、今後の「中長期事業計画」の策定の必要性が披瀝されました。この「中長期事業構想」は、本学が進むべき今後の方向性を示すとともに、今年度秋までに策定を予定している「中長期事業計画」の基礎となる構想となります。

#### <理事長あいさつ骨子>

- 中長期事業構想は、中長期事業計画の指針として、建学の精神に基づく、ミッションとビジョンを取り纏めたものである。
- ミッションは、「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神に基づき、「グローバルな視野と実地応用の力を備え、人類の福祉に貢献する人材の育成」とした。
- ミッションを遂行するために以下の5項目をビジョンとして掲げた。
  - 「社会の期待に応え、人類の福祉に貢献する力を備えた人材を育成するための総合的な実学教育の拠点の形成」
  - 「地球規模での複雑な諸問題の解決に寄与する専門的かつ学際的な研究の推進」
  - 「特色ある教育研究に立脚した社会連携とヒューマンネットワーク拠点の形成」
  - 「人類の未来を拓き、常に新たな社会的価値を創出する総合キャンパスの構築」
  - 「本学の継続的な事業活動を支える揺るぎない経営基盤の確立」
- 多摩校舎に移転して37年が経過し、ここ数年、入学試験における本学志願者の減少傾向が続いている。本学のブランド力の低下に歯止めをかけ、ブランド力を向上させるためにも本学の存在意義を高める方策を企画し、着実に実行していかなければならない状況である。
- 附属の中学校、高等学校を含めた本学全体の事業活動に対する社会からの評価を客観的に認識することが必要であり、こうした認識を踏まえて、本学の使命を果たし続けるための事業目標を設定する。
- この一連の作業のなかで130年の歴史を再確認しつつ、中央大学の伝統の継承と発展、今後の展開のための新たな課題設定を、法人・教学の緊密な協力のもと、その達成に向けて役員と教職員が全力を傾けてまいりたいと考えている。

### 事業計画

その後、5月23日開催の評議員会において、深澤理事長から「去る3月開催の評議員会において報告をいたしました『中長期事業構想』を具現化する『中長期事業計画』を策定するため、理事長の諮問機関である総合企画委員会が開催され、重点項目を選定して、本学の進むべき基本的な方向性の検討が継続的に行われており、今年秋に予定されている同委員会の答申の提出を待って、本学の今後10年間の針路を決める確固たる中長期事業計画を理事会で策定したいと考えている。」旨の報告が行われました。また、総合企画委員会の審議状況に関し、同委員会の副委員長である酒井総長・学長から「今後10年間に本学が一致団結して取り組むべき事業計画のなかで、本学の喫緊の課題として取り組むべきテーマとして、①入試政策の策定(新テストの導入を睨みつつ志願者数の増やその質の向上策)、②研究環境の整備と評価の推進(科学研究費補助金採択率の向上策等)③キャンパスの整備(都心展開の検討、既存キャンパスの整備等含む)、④教育組織の改編・創設検討(学部、大学院の再編と新学部の創設検討)、⑤スポーツ振興策、⑥中長期財務計画策定、の6項目を選定するとともに、これらに準ずる基盤的な事業計画として、グローバル化の推進(国際力の向上)や、附属校を含む総合学園力の向上なども重要視しながら、全体計画を策定する予定である。」旨の報告が行われました。